

- ☛ For more records, click the Records link at page end.
- ☛ To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- ☛ To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Select d.
- ☛ To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	<input checked="" type="checkbox"/> Clear Selections	<input type="button" value="Print/Save Selected"/>	<input type="button" value="Send Results"/>	<input type="button" value="Display Selected"/>	Format Free
--	--	--	---	---	----------------

1. ☐ 4/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

008642009 \*\*Image available\*\*

WPI Acc No: 1991-146039/199120

XRAM Acc No: C91-063195

XRFX Acc No: N91-112260

Thermal transferring recording material - comprises  
heat-sensitive layer contg. azo dye giving high gradation and fixer  
property

Patent Assignee: KONICA CORP (KONS )

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 3083687	A	19910409	JP 89222483	A	19890829	199120 B

Priority Applications (No Type Date): JP 89222483 A 19890829

Abstract (Basic): JP 3083687 A

The thermal transferring recording material has the heat-sensitive layer including the dye cpd. of (I) on a base; where R1 and R2 are halogen, alkyl gp. cycloalkyl gp., aryl gp., alkenyl gp., aralkyl gp., alkoxy gp., aryloxy gp., cyano gp., acylamino gp., alkylthio gp., arylthio gp., sulphonyl amino gp., ureide gp., carbamoy gp., sulphamoyl gp., alkoxy carbonyl gp., aryloxycarbonyl gp., sulphonyl gp., acyl gp. and amino gp., m is integer 1-4, n is integer 0, 1-4, R1 and R2 may be same or different from each other when m or n is 2-4, and the same substituents of R1 and R2 can form C ring or heterocycle by bonding with each other.

The image formation comprises heating the thermal transferring material having the heat-sensitive layer including the cpd. of (I) on the base, from the back surface of the base corresponding to the image information, and forming the image of the dye cpd. in presence of the basic cpd. and/or mordant onto the image receiving material.

USE/ADVANTAGE - The coloured image of high gradation and high fixing property can be formed. (14pp Dwg.No.0/0)

Title Terms: THERMAL; TRANSFER; RECORD; MATERIAL; COMPRISE; HEAT; SENSITIVE  
; LAYER; CONTAIN; AZO; DYE; HIGH; GRADATION; FIX; PROPERTIES

Derwent Class: A89; E24; G05; P75

International Patent Class (Additional): B41M-005/38

File Segment: CPI; EngPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2003 Thomson Derwent. All rights reserved.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	<input checked="" type="checkbox"/> Clear Selections	<input type="button" value="Print/Save Selected"/>	<input type="button" value="Send Results"/>	<input type="button" value="Display Selected"/>	Format Free
--	--	--	---	---	----------------

© 2003 Dialog, a Thomson business

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平3-83687

⑬ Int.Cl.<sup>9</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)4月9日

B 41 M 5/38

6715-2H

B 41 M 5/26

1 0 1 K

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全14頁)

⑮ 発明の名称 感熱転写記録材料

⑯ 特 願 平1-222483

⑰ 出 願 平1(1989)8月29日

⑱ 発 明 者 駒 村 大 和 良 東京都日野市さくら町1番地 コニカ株式会社内  
⑲ 発 明 者 池 端 依 子 東京都日野市さくら町1番地 コニカ株式会社内  
⑳ 出 願 人 コニカ株式会社 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号  
㉑ 代 理 人 弁理士 中島 幹雄 外1名

## 明 細 書

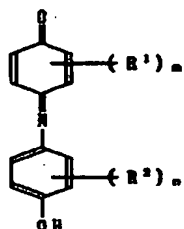
### 1. 発明の名称

感熱転写記録材料

### 2. 特許請求の範囲

1) 支持体上に少なくとも一般式【1】で表される色素化合物を含む感熱層を有することを特徴とする感熱転写記録材料。

一般式【1】



【式中、R<sup>1</sup>、R<sup>2</sup>は、ハロゲン原子、アルキル基、シクロアルキル基、アリール基、アルケニル基、アラルキル基、アルコキシ基、アリールオキシ基、シアノ基、アシルアミノ基、アルキルチオ基、アリールチオ基、スルホニルアミノ基、クレ

イド基、カルバモイル基、スルファモイル基、アルコキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、スルホニル基、アシル基、アミノ基を表す。

mは1～4の整数を表し、nは0、1～4の整数を表す。またm又はnが2～4のとき、R<sup>1</sup>又はR<sup>2</sup>はそれぞれ同じであっても異っていてもよい。更にそれらの置換基は互いに結合して炭素環又は複素環を形成してもよい。】

2) 支持体上に少なくとも一般式【1】で表される色素化合物を含む感熱層を有する感熱転写材料を支持体の裏面から画像情報に応じて加熱し、受像材料上に塩基性化合物及び／又は媒染剤の存在下、前記色素化合物による画像を形成することを特徴とする感熱転写画像形成方法。

### 3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明は、感熱転写材料に関し、更に詳しくは分光特性、耐熱性及び定着性に優れたシアジ色素を含有する新規な感熱転写材料及び該色素を用い

た画像形成方法に関する。

#### 〔発明の背景〕

カラーハードコピーを得る方法としては、インクジェット、電子写真、感熱転写等によるカラー記録技術が検討されている。

これらのうち、特に感熱転写方式は、操作や保守の容易性、装置の小型化、低コスト化が可能なこと、更にはランニングコストが安い等の利点を有している。

この感熱転写方式には、支持体上に熔融性インク層を有する転写シート（感熱転写材料ともいう。）を感熱ヘッドにより加熱して、該インクを被転写シート（受像材料ともいう。）上に熔融転写する方式と、支持体上に熱拡散性色素（昇華性色素）を含有するインク層を有する転写シートを感熱ヘッドにより加熱して、被転写シートに前記熱拡散性色素を転写する熱拡散転写方式（昇華転写方式）の2種類があるが、この熱拡散転写方式の方が感熱ヘッドの熱的エネルギーの変化に応じて、色素の転写量を変化させて画像の階調をコン

(2) トロールすることができるので、フルカラー記録に有利である。

ところで、熱拡散転写方式の感熱転写記録においては、感熱転写料に用いられる色素が重要であり、転写記録のスピード、画質、画像の保存安定性等に大きな影響を与える。

したがって、前述の熱拡散転写方式に用いる色素としては、以下の性質を具備していることが必要である。

- (1) 感熱記録条件（ヘッドの温度、ヘッドの加熱時間）で容易に熱拡散（昇華）すること。
- (2) 色再現上好ましい色相を有すること。
- (3) 記録時の加熱温度で熱分解しないこと。
- (4) 耐光性、耐熱性、耐湿性、耐薬品性等が良好であること。
- (5) モル吸光係数が大きいこと。
- (6) 感熱転写材料への添加が容易であること。
- (7) 合成が容易であること。

更にこれに加えて画像の定着性が優れていことが求められている。

従来、感熱転写材料用シアン色素としては、特開昭59-78896号、同59-227948号、同60-24996号、同60-53563号、同60-130735号、同60-131292号、同60-239289号、同61-19396号、同61-22993号、同61-31292号、同61-31467号、同61-35994号、同61-49893号、同61-148269号、同62-191191号、同63-91288号、同63-91287号、同63-290793号等の各公報に、ナフトキノロン系色素、アントラキノロン系色素、アゾメチン系色素等が開示されているが、上記の性質をすべて満足する色素は見出されておらず、特に熱拡散性、色相、耐熱性、耐光性等を満足し、しかも定着性の良好な色素は未だ見出されていない。

そこで、本発明者等は、前述の観点に立って、感熱転写材料用色素及びそれを用いた画像形成方法について、種々研究を続けた結果、意外にも一般式〔I〕の色素が前述の条件を満足し、特に定

着性に優れた好ましいものであることを発見し、これに基づいて本発明は完成したものである。

#### 〔発明の目的〕

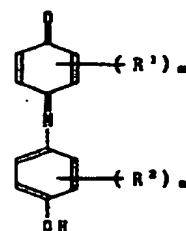
したがって、本発明の目的は、上記の性質、に熱拡散性、色相、耐熱性、耐光性等を満足し、しかも定着性が大幅に改良されたシアン色素を用いた感熱転写材料及び該色素を用いた画像形成方法を提供することにある。

#### 〔発明の構成〕

本発明の目的は、

1) 支持体上に少なくとも一般式〔I〕で表される色素化合物を含む感熱層を有することを特徴とする感熱転写記録材料及び

一般式〔I〕



〔式中、 $R^1$ 、 $R^2$  は、ハロゲン原子、アルキル基、シクロアルキル基、アリール基、アルケニル基、アラルキル基、アルコキシ基、アリールオキシ基、シアノ基、アシルアミノ基、アルキルチオ基、アリールチオ基、スルホニルアミノ基、ウレイド基、カルバモイル基、スルファモイル基、アルコキシカルボニル基、アリールオキシカルボニル基、スルホニル基、アシル基、アミノ基を表す。

$m$  は 1～4 の整数を表し、 $n$  は 0、1～4 の整数を表す。また  $m$  又は  $n$  が 2～4 のとき、 $R^1$  又は  $R^2$  はそれぞれ同じであっても異っていてもよい。更にそれらの置換基は互いに結合して炭素環又は複素環を形成してもよい。]

2) 支持体上に少なくとも一般式〔I〕で表される色素化合物を含む感光層を有する感光転写材料を支持体の裏面から画像情報に応じて加熱し、受像材料上に塩基性化合物及び／又は媒染剤の存在下、前記色素化合物による画像を形成することによって特徴とする感光転写画像形成方法によって達成さ

基、3, 3-ジメチルウレイド基、1, 3-ジメチルウレイド基等)、カルバモイル基(例えばメチルカルバモイル基、エチルカルバモイル基、ジメチルカルバモイル基等)、スルファモイル基(例えばエチルスルファモイル基、ジメチルスルファモイル基等)、アルコキシカルボニル基(例えばメトキシカルボニル基、エトキシカルボニル基等)、アリールオキシカルボニル基(例えばフェノキシカルボニル基等)、スルホニル基(例えばメタンスルホニル基、ブタンスルホニル基、フェニルスルホニル基等)、アシル基(例えばアセチル基、プロパノイル基、ブチロイル基等)、アミノ基(メチルアミノ基、エチルアミノ基、ジメチルアミノ基等)を表す。

これらの基は、更に置換されていてもよく、該置換基としては、アルキル基(例えばメチル基、エチル基、トリフルオロメチル基等)、アリール基(例えばフェニル基等)、アルコキシ基(例えばメトキシ基、エトキシ基等)、アミノ基(例えばメチルアミノ基、エチルアミノ基等)、アシル

れた。

以下、本発明を更に詳しく説明する。

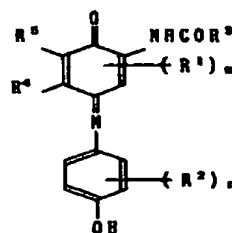
一般式〔I〕において、 $R^1$ 、 $R^2$  は水素原子、ハロゲン原子(例えば塩素原子、フッ素原子等)、アルキル基(例えばメチル基、エチル基、イソプロピル基、 $n$ -ブチル基)、シクロアルキル基(例えばシクロペンチル基、シクロヘキシル基等)、アリール基(例えばフェニル基等)、アルケニル基(例えば2-プロペニル基等)、アラルキル基(例えばベンジル基、2-フェネチル基等)、アルコキシ基(例えばメトキシ基、エトキシ基、イソプロポキシ基、 $n$ -ブトキシ基等)、アリールオキシ基(例えばフェノキシ基等)、シアノ基、アシルアミノ基(例えばアセチルアミノ基、プロピオニルアミノ基等)、アルキルチオ基(例えばメチルチオ基、エチルチオ基、 $n$ -ブチルチオ基等)、アリールチオ基(例えばフェニルチオ基)、スルホニルアミノ基(例えばメタンスルホニルアミノ基、ベンゼンスルホニルアミノ基等)、ウレイド基(例えば3-メチルウレイド

アミノ基(例えばアセチル基等)、スルホニル基(例えばメタンスルホニル基等)、アルコキシカルボニル基(例えばメトキシカルボニル基)、シアノ基、ニトロ基、ハロゲン原子(例えば塩素原子、フッ素原子等)等が挙げられる。

またこれらの  $R^1$ 、 $R^2$  で表される基(置換基を有する場合には置換基も含む。)は、炭素数 12 個以下(特に好ましくは 8 個以下)が好ましい。

一般式〔I〕で表される化合物(以下本発明で用いられる化合物という。)として、特に好ましくは、下記的一般式〔II〕で表される。

一般式〔II〕



〔式中、 $R^2$  は、アルキル基(例えばメチル基、

エチル基、イソプロピル基等)、シクロアルキル基(例えばシクロペンチル基、シクロヘキシル基等)、アリール基(例えばフェニル基等)、アルキルアミノ基(例えばメチルアミノ基、エチルアミノ基等)、ジアルキルアミノ基(例えばジメチルアミノ基、ジエチルアミノ基等)、又はアリールアミノ基(例えばフェニルアミノ基等)を表し、 $R^4$ は、アルキル基(例えばメチル基、エチル基、イソプロピル基、ブチル基等)、アシルアミノ基(例えばアセチルアミノ基、プロピオニルアミノ基等)又は水素原子を表し、

$R^5$ は、アルキル基(例えばメチル基、エチル基等)、アシルアミノ基(例えばアセチルアミノ基、プロピオニルアミノ基等)、ハロゲン原子(例えば塩素原子、フッ素原子等)又は水素原子を表す。また $R^4$ 及び $R^5$ は、共に結合して5~6員環を形成してもよい。]

これらの基は、更に置換されていてもよく、該置換基としては、アルキル基(例えばメチル基、エチル基、トリフルオロメチル基等)、アリール

ミノフェノール誘導体との酸化カップリングによって得られる化合物であり、したがってフェノール性水酸基を有することにより定着性が改良される。

次に、本発明に用いられる一般式【I】で表される色素の代表的な化合物例を示すが、本発明はこれらに限定されるものではない。

以下余白

(4) 基(例えばフェニル基等)、アルコキシ基(例えばメトキシ基、エトキシ基等)、アミノ基(例えばメチルアミノ基、エチルアミノ基等)、アシルアミノ基(例えばアセチル基等)、スルホニル基(例えばメタンスルホニル基等)、アルコキシカルボニル基(例えばメトキシカルボニル基)、シアノ基、ニトロ基、ハロゲン原子(例えば塩素原子、フッ素原子等)等が挙げられる。

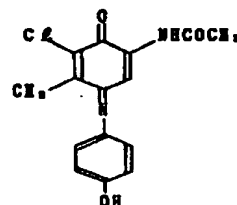
またこれらの $R^3$ 、 $R^4$ 、 $R^5$ で表される基(置換基を有する場合には置換基も含む。)は、炭素数12個以下(特に好ましくは8個以下)が好ましい。

$R^2$ は、一般式【I】で表された $R^2$ と同じものを表す。 $p$ は1又は2を表す。

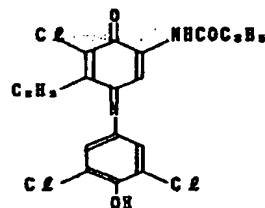
本発明で用いられる化合物は、フェノール誘導体と $p$ -アミノフェノール誘導体を酸化カップリングすることにより合成される。

従来公知の化合物は、 $p$ -フェニレンジアミン誘導体との酸化カップリングによって得られるのに対して、本発明で用いられる化合物は、 $p$ -ア

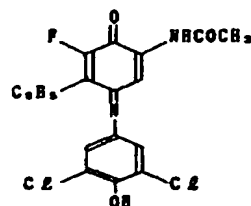
Dye-1



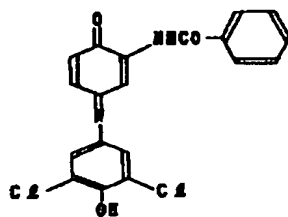
Dye-2



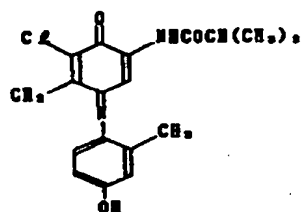
Dye-3



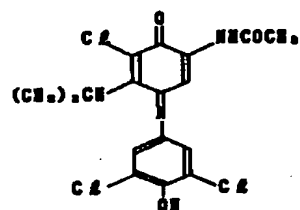
Dye-4



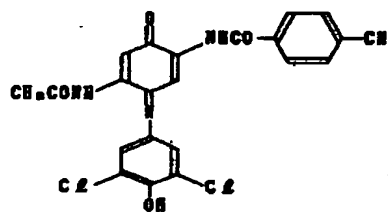
Dye-5



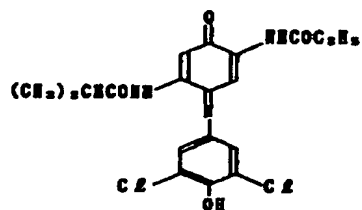
Dye-6



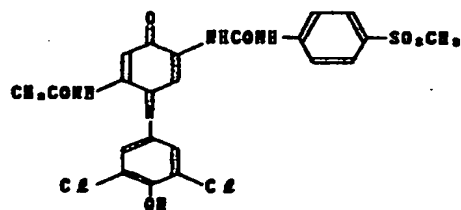
Dye-10



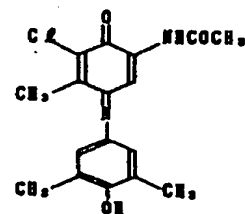
Dye-11



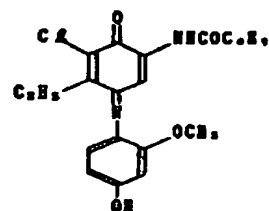
Dye-12



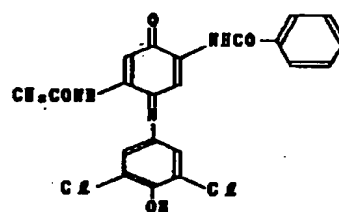
(5)  
Dye-7



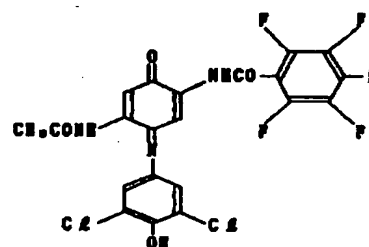
Dye-8



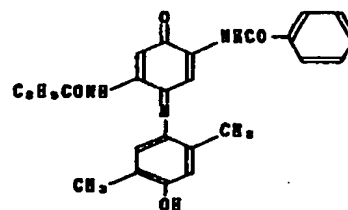
Dye-9



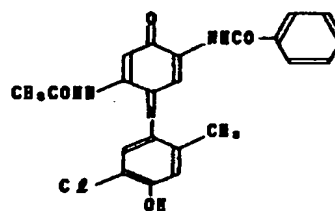
Dye-13



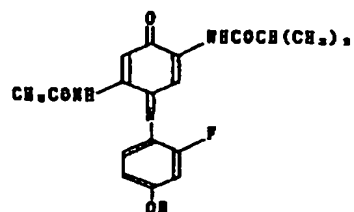
Dye-14



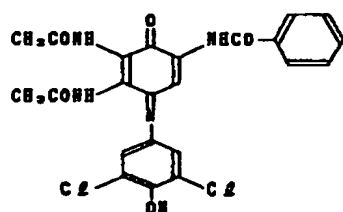
Dye-15



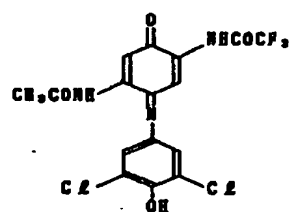
Dye-16



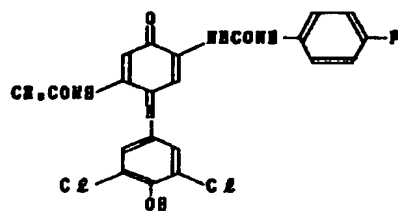
Dye-17



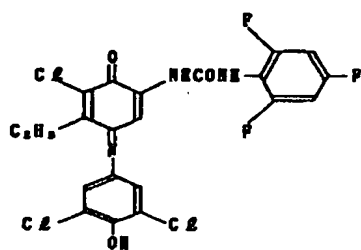
Dye-18



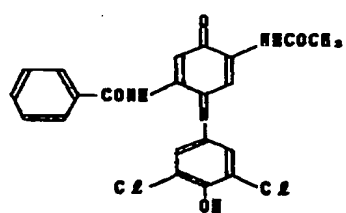
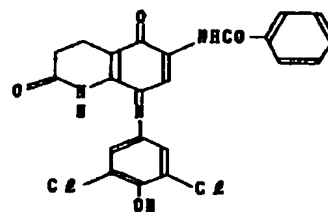
Dye-22



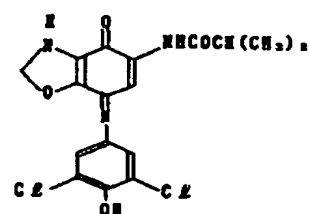
Dye-23



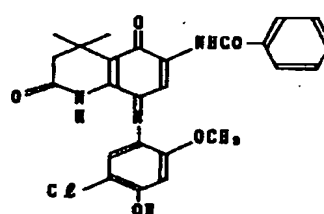
Dye-24

(6)  
Dye-19

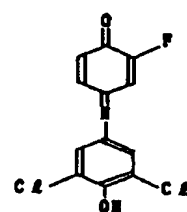
Dye-20



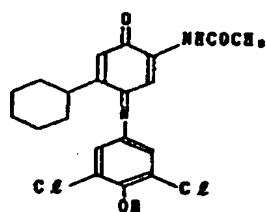
Dye-21



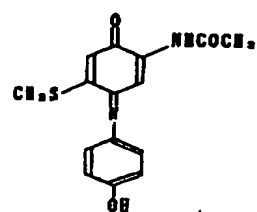
Dye-25



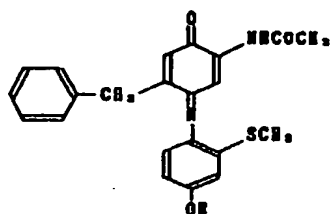
Dye-26



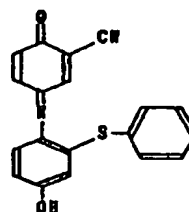
Dye-27



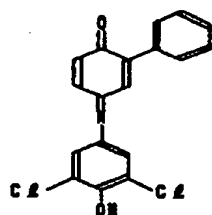
Dye-28



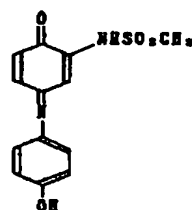
Dye-31<sup>(7)</sup>



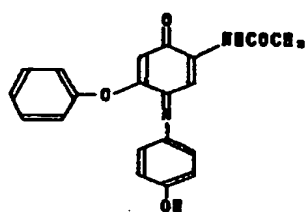
Dye-29



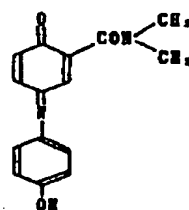
Dye-32



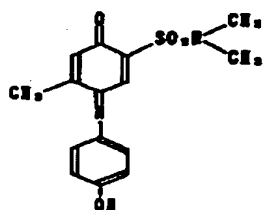
Dye-30



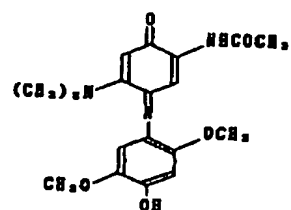
Dye-33



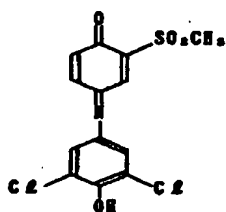
Dye-34



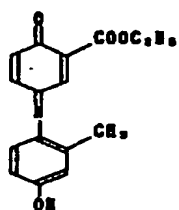
Dye-37



Dye-35



Dye-36





本発明で用いられる化合物は、塩基性の条件下<sup>(8)</sup>ではシアンの良好な色相を与えるが、酸性側では浅色にシフトし赤乃至紫の色相となる。したがって、本発明で用いられる化合物を単独で転写させ単独で画像形成することも可能であるが、受像層中で塩基性の化合物の存在下に画像を形成することにより鮮明なシアン画像を与える。

また本発明で用いられる化合物は、媒染剤に媒染させることによって塩基性の化合物の有無にかかわらず良好なシアンの色相を与える。したがって、受像層中で塩基性化合物及び／又は媒染剤の存在下に画像を形成することが好ましい。

特に媒染剤の存在下に画像を形成する方法は、色素が媒染剤によって媒染されることにより定着性が向上するためより好ましい。

本発明において、塩基性化合物及び／又は媒染剤は、受像材料（通常受像層という）に添加されるが、感熱転写材料が後述する如く2層構成の場合には、熱溶解性層に添加されてもよい。また塩基性化合物をインク層に添加してもよい。それら

層を構成しても良いが、通常受像層を構成する他の適当なバインダーと共に用いられる。該バインダーとしては、特開昭57-207250号等に記載されたガラス転移点が40℃以上、250℃以下の耐熱性有機高分子物質で形成されるものがけられる。これらのポリマーは通常受像層として支持体に担持さるが、これ自体が支持体を兼ねても良い。このポリマーとしては、「ポリマーハンドブック、セカンドエディション」(J. Brandrup, E. H. Immergut編) John Wiley & Sons 出版に記載されているガラス転移点が40℃以上の合成ポリマーも有用である。

ポリマー媒染剤としては特開昭48-28325号、同54-74430号、同54-124726号、同55-22766号、同55-142339号、同55-23850号、同60-23851号、同60-23852号、同60-23853号、同60-57836号、同60-60843号、同60-118834号、同60-122940号、同60-122941号、同60

の場合には受像層に塩基性化合物及び／又は媒染剤を必ずしも含有させる必要はない。

本発明に用いられる塩基性化合物としては、特に制限はないが、無機又は有機の塩基性化合物が用いられ、例えば炭酸カルシウム、炭酸ナトリウム、酢酸ナトリウム、アルキルアミン、アリールアミン等が挙げられる。

本発明においては、媒染剤を用いることが好ましく、特に受像層に媒染剤を添加することが好ましい。

本発明に用いられる媒染剤としては、3級アミノ基を有する化合物、含窒素複素環基を有する化合物及びこれらの4級カチオン基を有する化合物である。

受像層に媒染剤を用いる場合には、媒染剤は不動態化されていることが好ましく、特にポリマー媒染剤が好ましい。また媒染剤を感熱転写材料の熱溶解層に添加する場合には、分子量400以下の媒染剤が好ましい。

ポリマー媒染剤としては、それ自体単独で受像

-122942号、同60-235134号、米国特許第2,484,430号、同2,548,584号、同3,148,081号、同3,148,161号、同3,309,690号、同3,756,814号、同3,898,088号、同3,958,995号、同4,115,124号、同4,124,386号、同4,193,800号、同4,273,853号、同4,282,305号、同4,450,224号、英国特許第1,594,961号、同2,056,101号、同2,093,041号等の各明細書に記載のものからも選択されるが、例えば以下のポリマー媒染剤を用いることができる。

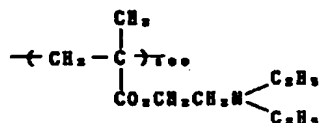
まず3級アミノ基を有すポリマー媒染剤としては、例えば以下のポリマーが挙げられる。

(9)

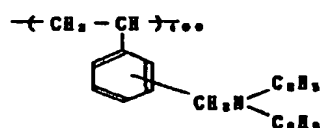
以下、本発明に用いられる媒染剤の具体的代表例を挙げるが、本発明は、これら例に限定されるものではない。

(数字はモル%を表す)

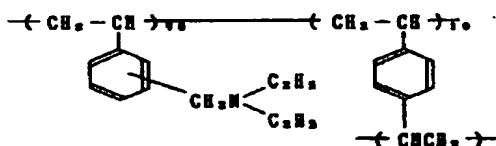
P-1



P-2

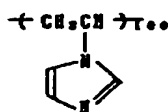


P-3

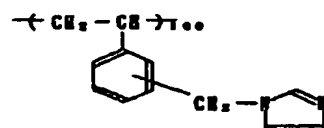


含窒素複素環基としてはイミダゾール基及びピリジル基が好ましく、該基を有するポリマー媒染剤の具体例としては以下のポリマーが挙げられる。

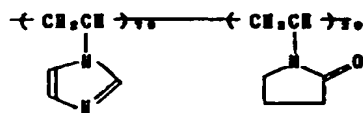
P-5



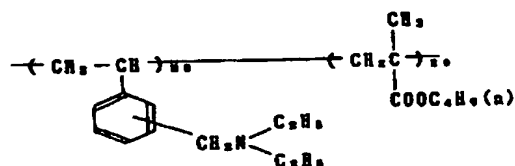
P-6



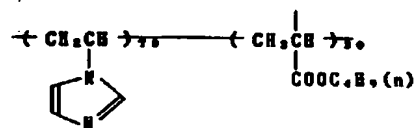
P-7



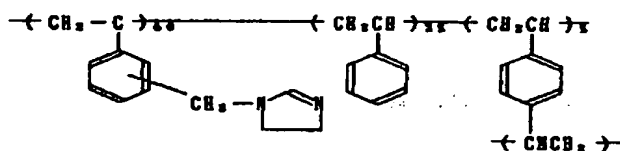
P-4



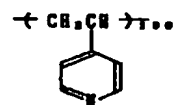
P-8



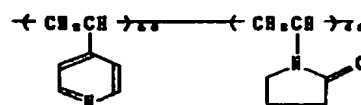
P-9



P-10



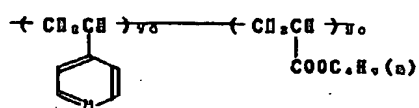
P-11



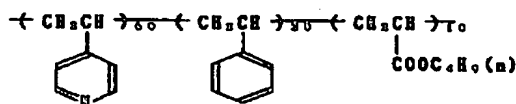
(10)

4級アンモニウム基を有するポリマー酸塩類の  
具体例としては以下のポリマーが挙げられる。

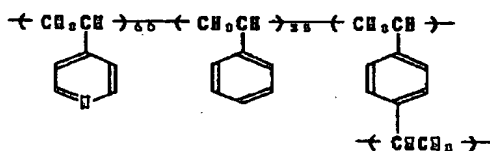
P-12



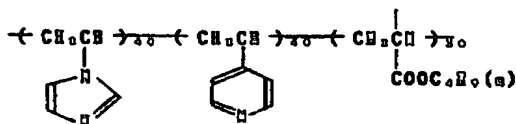
P-13



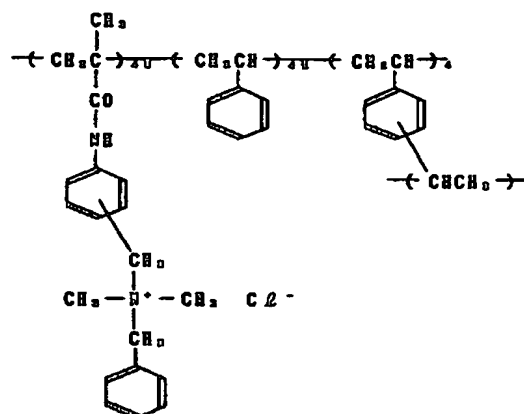
P-14



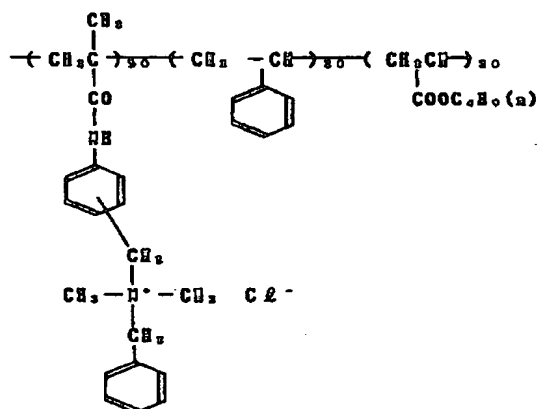
P-15



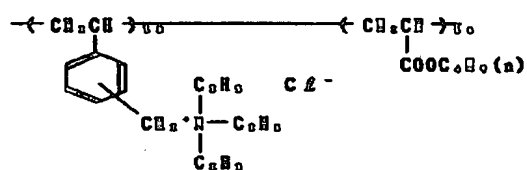
P-16



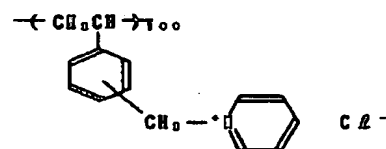
P-17



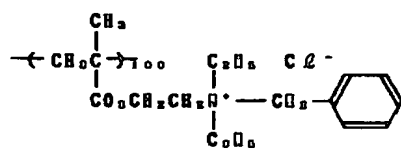
P-19



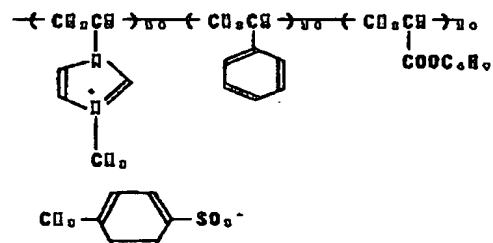
P-20



P-18



P-21



(11)

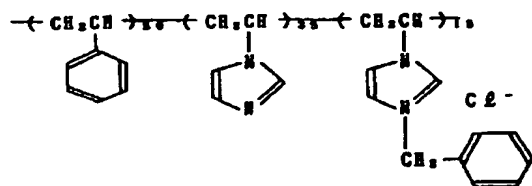
本発明の感熱転写材料は、前記色素をバインダーと共に溶媒中に溶解するかあるいは微粒子状に分散させることにより色素を含有するインキを調整し、該インキを支持体上に塗布、乾燥することによってインキ層または感熱層が得られる。

本発明に用いられる色素の使用量は、支持体1 $\text{m}^2$ 当り0.1 g $\sim$ 20 gが好ましい。

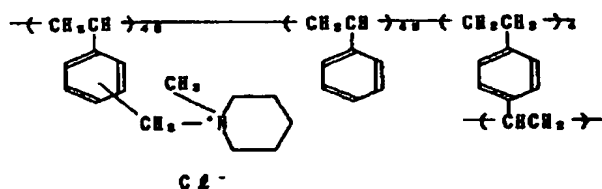
このようにして得られた感熱転写材料を用いた画像形成方法は、受像材料を用意し、感熱層と受像層面とを合わせてから感熱転写材料の支持体の裏面から画像情報に応じて熱を与えると、この熱画像に応じた色素が受像層に拡散して、そこで色素が定着されて色素画像が得られる。

前記バインダーとしては、セルロース系、ポリアクリル酸系、ポリビニルアルコール系、ポリビニルピロリドン系等の水溶性ポリマー、アクリル樹脂、メタクリル樹脂、ポリスチレン、ポリカーボネート、ポリスルホン、ポリエーテルスルホン、エチルセルロース等の有機溶媒に可溶のポリマーがある。有機溶媒に可溶のポリマーを用いる

P-22



P-23



場合は、有機溶媒に溶解して用いるだけでなく、ラテックス分散の形で使用してもよい。

バインダーの使用量としては、支持体1 $\text{m}^2$ 当り0.1 g $\sim$ 50 gが好ましい。

本発明に用いられる支持体としては、寸法安定性がよく、感熱ヘッドでの記録の際の熱に耐えるものならば、何でもよいが、コンデンサー紙、グラシン紙のような薄葉紙、ポリエチレンテレフタレート、ポリアミド、ポリカーボネートのような耐熱性のプラスチックフィルムを用いることができる。

支持体の厚さは、2 $\sim$ 30 $\mu\text{m}$ が好ましく、また支持体にはバインダーとの接着性の改良や色素の支持体側への転写、染着を防止する目的で下引層を有していてもよい。

更に支持体の裏面（インキ層と反対側）には、ヘッドが支持体に粘着するのを防止する目的でスリッピング層を有していてもよい。

本発明に用いられるインキ層、即ち感熱層は、支持体上に塗布するか、またはグラビア法等の印

刷法により支持体上に印刷される。感熱層の厚さは乾燥膜厚で0.1 $\mu\text{m}$  $\sim$ 5 $\mu\text{m}$ が好ましい。

感熱層のインキを調整するための溶媒としては、水、アルコール類（例えばエタノール、プロパノール）、セロソルブ類（例えば酢酸エチル）、芳香族類（例えばトルエン、キシレン、クロルベンゼン）、ケトン類（例えばアセトン、メチルエチルケトン）、エーテル類（例えばテトラヒドロフラン、ジオキサン）、塩素系溶剤（例えばクロロホルム、トリクロルエチレン）等がけられる。

本発明の感熱転写材料は、基本的には、支持体上に本発明に用いられる色素及びバインダーからなるインキ層、即ち感熱層から構成されているが、該インキ層上に特開昭59-108997号公報に記載されているような熱溶解性化合物を含有する熱溶解性層を有していてもよい。

更に本発明の感熱転写材料をフルカラー画像記録に適用する場合には、支持体上にシアン色素を含有するシアンインキ層、熱拡散性マゼンタ色素

を含有するマゼンタインキ層、熱拡散性イエロー色層を含有するイエローインキ層の3つの層を順次繰り返して塗設されていることが好ましい。

また必要に応じてイエロー、マゼンタ、シアンの各層の他に黒色顔料形成物質を含むインキ層を更に塗設し、合計4つの層が順次繰り返して塗設されていてもよい。

#### 〔実施例〕

以下、実施例により本発明を更に具体的に説明するが、本発明は、これらの実施例にのみ限定されるものではない。

#### 実施例1

##### 〔インキ層（感熱層）〕

下記の組成の混合物をペイントコンデシナーを用いて成型し、本発明に用いられる熱拡散性色層を含有する均一な塗設のインクを得た。

色層化合物 Dye-2	10g
ポリビニルブチラール樹脂	15g
メチルエチルケトン	150 0.2
トルエン	150 0.2

第 1 表

色層	バインダー (付与)	組換剤 (付与)	アルカリ剤 (付与)	支持体
A	ポリビニルピロリドン (10g/0.2)	P-18 (10g/0.2)	なし	バライタ紙
B	ポリビニルブチラール (10g/0.2)	P-18 (10g/0.2)	なし	バライタ紙
C	ポリビニルピロリドン (10g/0.2)	P-18 (10g/0.2)	炭酸カリウム (1g/0.2)	バライタ紙
D	ポリビニルピロリドン (10g/0.2)	なし	炭酸カリウム (1g/0.2)	バライタ紙
E	ポリ塩化ビニル (10g/0.2)	P-4 (10g/0.2)	なし	ポリプロピレン重合体紙
F	ポリ塩化ビニル (10g/0.2)	P-15 (10g/0.2)	なし	ポリプロピレン重合体紙
G	ポリビニルピロリドン (10g/0.2)	なし	なし	ポリプロピレン重合体紙

注) アルカリ剤は塩基性化合物と同値である。

#### 〔転写シートの作製〕

上記の熱拡散性色層を含有するインクを、厚さ15μmのポリイミドフィルムよりなる支持体上に、ワイヤーバーを用いて乾燥後の塗布量が1.0g/0.2になるように塗布、乾燥して熱拡散性色層を含有する層を形成し、感熱転写材料-1を作製した。

同様に、感熱転写材料-1のDye-2に代えて、第2表に示す色層を用いた以外は、感熱転写材料-1と同様に感熱転写材料-2~7を作製した。

#### 〔受像材料の作製〕

10%のポリマー組換剤 (P-18) を含むラテックス分級液100gにポリビニルピロリドン10gを溶解し、ポリビニルピロリドン (バインダー) の付与が支持体10.2当り10gとなるように写真用バライタ紙上に塗布して受像材料-Aを作製した。

同様に、表-1に示す組成の受像材料-B~Gを作製した。

#### 〔感熱転写画像形成方法〕

前記の如く得られた感熱転写シート (1~7) と受像材料 (A及びE) とを感熱転写シートのインク塗布面と受像材料の受像面とが向き合うように重ね、感熱ヘッドを感熱転写シートの表面から当てて画像記録を行った。その結果陽像性の優れた画像が得られた。

えられた画像の最大密度について表-2に示す。

この時の記録条件は、以下の通りである。

主走査、副走査の線密度 4ドット/0.2

記録電力 0.8W/ドット

感熱ヘッドの加熱時間

200nsec (印加エネルギー約  $11.2 \times 10^{-3} \text{J}$ )

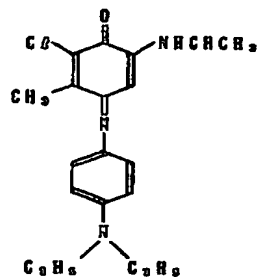
から200nsec (印加エネルギー約  $1.12 \times 10^{-3} \text{J}$ ) の間で段階的に加熱時間を調整した。

(13)

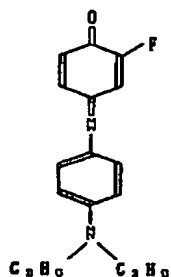
図 2 表

感熱転写材料No.		色 料	受転材料	色料No.	D max
1	本発明	Dye-2	A	1	1.79
			E	2	1.07
2	本発明	Dye-5	A	3	1.79
			E	4	1.93
3	本発明	Dye-6	A	5	1.70
			E	6	1.84
4	本発明	Dye-9	A	7	1.75
			E	8	1.89
5	本発明	Dye-13	A	9	1.70
			E	10	1.70
6	比較例	Dye-A	A	11	1.37
			E	12	1.00
7	比較例	Dye-B	A	13	1.41
			E	14	1.07

Dye-A



Dye-B



以下余白

表-2から明らかなように、本発明の方法を用いることにより高濃度の感熱転写画像が得られる。

## 実施例 2

実施例1で得られた画 (No.1~No.14) の受転層側に乾式電子写真用の上質紙を貼合せたものと可溶剤としてフタル酸ジオクチル (30%) を含むポリ塩化ビニルシートを貼合せたものとの2組について、上から30g/cm<sup>2</sup>の圧力を加えて60℃の温度で3日間放置した後、上質紙を受転材料より引き剥して上質紙上に再転写された画像濃度をそれぞれ測定した。

得られた結果を表-3に示す。

図 3 表

画像No.	再転写濃度		画像No.	再転写濃度	
	上質紙	塩化ビニルシート		上質紙	塩化ビニルシート
1	0.00	0.00	8	0.00	0.01
2	0.00	0.00	9	0.00	0.01
3	0.00	0.00	10	0.00	0.01
4	0.00	0.00	11	0.27	0.01
5	0.00	0.00	12	0.13	0.41
6	0.00	0.01	13	0.33	0.50
7	0.01	0.02	14	0.12	0.40

